

編集後記

Redaktionelle Anmerkungen

本号『フィヒテ研究』第33号は、2024年11月に大阪大学にて開催された日本フィヒテ協会第40回研究大会を中心に編集されたものである。

大会では、『ドイツ国民への講話』をめぐる共同討議および「カントとフィヒテ——カント生誕300年記念」と題するシンポジウム討議を通じて、フィヒテ哲学の歴史的意義が多角的に検討された。これに加え、本号には、投稿論文や書評など、会員による研究成果が収録されている。

これまで編集委員長を務めてこられた舟場保之氏にかわり、今号より筆者が編集を担当することになった。なにぶん不慣れな点も多く、多くの方々にお手数をおかけしたことを、この場を借りてお詫び申し上げたい。

本誌の刊行にあたっては、寄稿者各位のご協力はもとより、査読委員ならびに編集委員の先生方の多大なるご尽力を賜った。ここに記して深く感謝申し上げる。とりわけ、今回より発行業務をお引き受けくださったヨシダ印刷の大石七葉様には、心より御礼申し上げたい。

近年、フィヒテ研究はドイツ国内のみならず、国際的な哲学研究の文脈においても再評価が進んでいる。日本フィヒテ協会としても、国内外の研究者との連携をいっそう深めつつ、今後も本誌を通じて学術的交流の場を広げていく所存である。

末筆ながら、会員諸氏のますますのご健勝とご研究のご発展を祈念しつつ、本号をお届けする。

2025年10月

編集委員長 伊藤 貴雄
Takao ITO